

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	利用者の現状把握と多様な市民ニーズを明確にし、利用者拡大へ向けた検討を行っていく必要がある。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	コミュニティバス運営に関する検討委員会を設置し、土、日曜日の運行、1日の運行本数の増便、定時性の確保、路線の拡張等の利便性の向上について検討を行う。
②①に基づく取組み結果	バス停毎の利用客数、運行遅延状況、利用者からの意見等を取りまとめた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内4ルート(東線、東線2、南線、西線)に分け月曜日から金曜日まで、1日4便から6便の運行経費から運賃収入を引いた金額に対する予算の範囲内での補助金の支出			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度から平成25年度までは、約3%の利用客が増えていたが、平成26年度は、約4%の減となった。</li> <li>運行車両の老朽化による買替時期が来ている。</li> <li>運行の定時性確保の要望</li> <li>運行ルートの改編要望</li> <li>バス停のベンチ設置要望</li> </ul>			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	利用客数 74,771人(前年比4.2%減) 収支率 22.8%(前年比1.6%減)					
②成果を表す指標	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i コミュニティバス利用者数	76,014	78,036	74,771	人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算	
事業費(千円)	19,976	20,149	金額(千円)	内容	21,023	
国支出金(千円)	0	0	69	報償費	0	
県支出金(千円)	0	0	20,080	補助金	0	
市債その他(千円)	0	0			0	
一般財源(千円)	19,976	20,149			21,023	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	土、日の運行、定時性の確保、運賃の改正(消費税分)及び、バスの耐用年数がきており、買い替えが必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	現在、コスト的には低いと考えるが、高齢化社会の対応として、地域活動や生涯学習などの参加からコミュニティバスの運行は必要不可欠である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	補助金支出等	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金支出等	20,230	20,230	当初	20,230	H25からの繰越	0
				H25⇒26繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	20,149
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成27年度への繰越額(単位:千円)		0			

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	北総鉄道運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市政策室			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	佐瀬 功			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	助成期間が合意書により平成26年度迄となっている。今後、これまで行った助成について関係団体と検証していく。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	県・関係6市及び北総鉄道(株)は、これまで運賃値下げの合意書に基づき、北総線沿線地域活性化協議会を設置していたが、北総線利用者を増加させるため、引き続き北総地域の発展に相互に連携し、協力する必要がある。
②①に基づく取組み結果	補助金支出をしていたこれまでの値下げ運賃は、維持できないが、北総鉄道(株)の負担のみで平成36年度まで値下げ運賃を確保した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北総線(京成高砂～印旛日医大間の運賃)	意図(対象をどうするのか)	普通運賃5%弱、通学定期運賃25%、通勤定期運賃1%強の値下げ
②事務事業の概要		北総線の運賃を値下げすることを目的として、値下げによる減収分を鉄道事業者、千葉県及び関係6市で平成22年度から平成26年度の5年間補てんする。		
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)		助成は終了したが、北総鉄道(株)の負担で普通運賃2.7%、通勤定期運賃0.6%、通学定期運賃25%の値下げを平成36年度まで維持することとなったが、引き続き、北総線の利用者を増加させる取り組みが必要である。		

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	千葉県及び関係6市で年総額258,902千円を助成し、平成27年2月9日まで普通運賃5%弱、通学定期運賃25%、通勤定期運賃1%強の値下げが実施された。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	補助金支払済割合	57	78	100	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	9,000	7,767	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			7,767	運賃助成事業補助金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	9,000	7,767			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年2月10日以降、北総鉄道(株)の負担で、普通運賃2.7%、通勤定期運賃0.6%、通学定期運賃25%の値下げを平成36年度まで維持することとなっているが、現行運賃の維持または、更なる値下げが課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	県・関係6市等で締結した合意書により、平成22年度から平成26年度までの5年間で終了したが、北総鉄道(株)がこれまで運賃値下げしていた負担を継続し、平成27年2月10日以降については、上記、値下げ率となっている。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	補助金支出	平成26年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	補助金支出	9,000	9,000	当初	9,000	7,767	H25からの繰越	0
				H25→26繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	7,767
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
平成27年度への繰越額(単位:千円)								

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷地区広域交流拠点形成推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	311広域交流拠点の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

① 前回の評価で掲げた内容	地元自治会との連携強化等を通し、地域のまちづくり活動の活性化を図りながら、引き続き、まちづくり組織の立上げを支援する。	③ 平成27年度に取組む改革・改善内容	既存の取組みが住民主体でなされるよう誘導しながら、これまでのまちづくり関連業務に係る実績や成果、変遷を整理し、今後の展望をとりまとめる。また、地区周辺のまちづくりについても検討していく。
② ①に基づく取組み結果	自治会をはじめとする地域住民と直に対話することで、自主的活動についての意識を把握することができた。また、地域住民同士で、まちづくり活動の主体となる参加者を見つけるための協議が始められた。		

II 事務事業の目的・概要

① 目的	対象	新鎌ヶ谷センター地区	意図(対象をどうするのか)	広域交流拠点機能の集積、地区の賑わいづくり
② 事務事業の概要	区画整理事業が完了した新鎌ヶ谷地区において、更なる広域交流拠点機能の集積や地区の賑わいづくりのため、主に地域の活性化やコミュニティの形成を推進する。			
③ 環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成25年度をもって区画整理事業は完了したが、同地区を市の顔となる広域交流拠点として形成するためには、更なる商業・業務・文化・娯楽等の都市機能集積が必要である。しかし、現時点では、地域による自主的なまちづくり活動の定着は難しい状況にある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

① 平成26年度の事業の成果	自治会をはじめとする地域住民の声を聞くことで、自主的活動についての意識を把握することができた。また、地域住民同士で、まちづくり活動の主体となる参加者を見つけるための協議が始められた。						
② 成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数	93,087	96,594	調査中	人/日	業務取得
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	225	236	234	件	業務取得
	iii	センター地区有効利用面積	6.8	6.9	7.0	ha	業務取得
③ 事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	25,231	24,695	金額(千円)	内容	27,421		
国支出金(千円)			1,976	新鎌ヶ谷地区にぎわいづくり事業委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	20,580	20,594			20,593		
一般財源(千円)	4,651	4,101			6,828		

IV 評価・検討

① 課題(目的に対する現状など)	地区の現状や、まちづくり活動に対する地域住民の意識が把握できてきた中で、今後の事業方針や手法をよく検討する必要がある。					
② 評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③ 上記評価の理由	魅力ある地域づくりに、地域住民の力は不可欠であり、今後、住民の意識醸成に合わせた施策展開が必要となるため。また、地区周辺のまちづくりも検討していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

① 平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
② 計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③ 達成状況		補正			現年分	
④ 未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市軸形成促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	【東鎌西口】国庫補助事業により道路の整備が完了させると共に、ポケットパークの整備も完了させる。また、整備完了後の地域活性化に繋げる方策を検討する。 【初富】関係機関と調整しながら概略設計を完成させる。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した中で、地域の活性化に向けた地元まちづくり団体等への支援策の検討を行う。 【初富】初富駅周辺の整備について、引き続き関係機関との協議を行い、整備方針を決定する。また、関係地権者との交渉を行い、整備に必要な用地を取得する。
②①に基づき取り組む内容	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した。 【初富】概略設計委託が完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	【東鎌西口】くらしのみちゾーン区域 【初富】初富駅周辺	意図(対象をどうするのか)	【東鎌西口】誰もが安心して歩くことができ、賑わいに満ちた中心市街地の形成を図る。 【初富】新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅前広場等の整備を行う。
②事務事業の概要	都市軸の一翼を担う東武鎌ヶ谷駅西口周辺地区及び初富駅周辺地区において、都市基盤整備の必要性を明らかにし、計画的な市街地の形成を図る。東武鎌ヶ谷駅西口周辺地区では、国土交通省の施策である「くらしのみちゾーン」に登録し、事業等を地元と共に推進している。初富駅周辺地区では、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅周辺の整備を行うため、地元組織や関係機関と協議しながら事業を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した中で、地元まちづくり団体等を支援しながら地域の活性化を推進する必要があるが、地元関係者が高齢化し、次世代の担い手も不足している状況であるため、地域のコミュニティを強化する必要がある。 【初富】新京成線連続立体交差事業の進捗状況等を見据えながら整備を促進する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した。 【初富】初富駅前広場概略設計委託が完了した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	道路整備着手延長(東鎌西口)	0	300	125	m	業務取得
ii	用地取得面積(初富)	1,279	0	0	m <sup>2</sup>	業務取得
iii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	-	52	-	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算	
事業費(千円)	103,644	120,627	金額(千円)	内容	29,221	
国支出金(千円)	52,800	46,377	8,483	鎌ヶ谷駅西口地区境界線復元測量委託等	0	
県支出金(千円)	0	0	109,167	鎌ヶ谷駅西口地区道路整備工事等	0	
市債その他(千円)	46,200	34,000	2,977	初富駅前広場概略設計委託	26,100	
一般財源(千円)	4,644	40,250			3,121	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	【東鎌西口】地域の活性化に向けて、地元まちづくり団体等への支援策の検討が必要である。 【初富】初富駅周辺の整備に向けて関係機関と協議中であり、引き続き整備に向けた検討が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備が完了した状況の中で、それらを活かしながら地域の活性化を図る必要があるため。 【初富】駅利用者の利便性や安全性を向上させるべく、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅周辺の整備を促進する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備 【初富】概略設計委託及び用地測量委託の実施	平成26年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	【東鎌西口】駅前広場やコミュニティ道路、ポケットパーク等の整備完了。【初富】概略設計委託は完了。用地測量委託の実施については再検討することとなった。	50,600	128,458	当初 50,600 H25→26繰越 77,858	120,627	H25からの繰越 77,843
③達成状況	完了			補正 0 流用・充当 0		現年分 42,784
④未完了・非着手の理由		平成27年度への繰越額(単位:千円) 0				

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	〇
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	311広域交流拠点の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	土地利用方策策定の後、具体的な土地利用推進のための業務に取り組んでゆく。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	南北自由通路、歩行者専用通路の整備に向けた調整を進めつつ、未利用地の活用に向けた検討をする。
②①に基づく取り組み結果	地区周辺の整備の進捗状況等に起因し、現時点での土地利用希望者の抽出には至らなかったが、条件が整った場合の進出希望者を発見することができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新鎌ヶ谷駅周辺地区	意図(対象をどうするのか)	地区の回遊性の確保や利便性の向上
②事務事業の概要	新鎌ヶ谷駅周辺地区が、魅力と活気にあふれる中心市街地として形成されるよう、土地利用の推進や通路の整備等を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東京10号線延伸新線の事業化の検討中止や、新京成線連続立体交差事業の進捗に伴い、新鎌ヶ谷駅周辺地区における土地利用の形態に大きな変化が見込まれる時期であるため、上記事業への取り組みが非常に重要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	新鎌ヶ谷地区の未利用地の活用に向けて、各事業者の進出希望を把握し、状況整理として取りまとめた。また、中街区の歩行者専用通路の整備実施に向け、用地を取得した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	新鎌ヶ谷駅乗降客数	93,087	96,594	調査中	人/日	業務取得
	ii	新鎌ヶ谷地区事業所数	225	236	234	件	業務取得
	iii	新鎌ヶ谷地区市街地整備促進事業進捗率	16	17	27	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	190	67,934	金額(千円)	内容		23,600	
国支出金(千円)			4,515	新鎌ヶ谷駅周辺土地利用調査業務委託			
県支出金(千円)			63,419	中街区歩行者専用通路用地購入費			
市債その他(千円)		18,500				21,200	
一般財源(千円)	190	49,434				2,400	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	南北自由通路の整備に向けて、関係者と、用地取得や設計についての調整を進める必要がある。併せて、その周辺の未利用地の活用方針を検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新京成線高架化事業完了を見据え、鎌ヶ谷市の顔となる同地区については、市街地形成の更なる促進が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	・通路用地測量 ・用地取得	平成26年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	・用地取得(用地交渉の結果、測量は実施しなかった)	76,000	80,515	当初	76,000	67,934	H25からの繰越	4,515
				H25⇒26繰越	4,515		現年分	63,419
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	-			流用・充当	0			
				平成27年度への繰越額(単位:千円)		0		

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	近隣商業拠点整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	〇
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	大塚 勝彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	関係機関(連立事業者、道路管理者、警察)と調整しながら概略設計を完成させると共に、関係地権者との調整を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	北初富駅周辺の整備について、引き続き関係機関との協議を行い、整備方針を決定する。また、整備に必要な用地の取得に向けて関係地権者との交渉を行う。
②①に基づく取組み結果	概略設計委託が完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北初富駅周辺	意図(対象をどうするのか)	新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅前広場等の整備を行う。
②事務事業の概要	近隣商業拠点の一つである北初富駅周辺地区では、市民の日常生活に身近な商業等のサービス機能の充実を目指し、駅前広場等の整備に向け事業を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業の進捗状況等を見据えた調整が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	新京成線連続立体交差事業の進捗に合わせた駅前広場の整備に向け、平成26年度は北初富駅前広場概略設計委託が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	事業着手箇所数	0	0	0	箇所	業務取得
	ii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	-	52	-	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	492	1,486	金額(千円)	内容	1,000		
国支出金(千円)	0	0	1,486	北初富駅前広場概略設計委託	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	492	1,486			1,000		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	北初富駅周辺の整備に向けて関係機関と協議中であり、引き続き整備に向けた検討が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	駅利用者の利便性や安全性を向上させるべく、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら駅前広場等の整備を促進する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	・概略設計 ・用地測量	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	概略設計委託は完了。用地測量委託の実施については再検討することとなった。	300	1,786	当初	300	H25からの繰越	1,486
				H25→26繰越	1,486		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	0
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成27年度への繰越額(単位:千円)		0			